

## 第8回 佐久穂町学校跡地施設等利用検討委員会 会議概要

日 時：平成24年11月29日（木）午後7時～午後9時

場 所：佐久庁舎 南第1会議室

出席者：委員19名（欠席者なし）

傍聴者1名、事務局4名（相馬総務課長、佐々木係長、黛、西澤）

1. 開会
2. あいさつ
3. 会議事項

### （1）アイデア評価結果について

**黛**⇒資料1、資料2の説明。

**友野委員長**⇒評価結果を基に検討を進める。まずは各委員からご意見を頂きたい。

**力武委員**⇒東小の5番、3番、7番、8番、4番は内容的に重複する。現時点、1つに絞る程のアイデアにはなっていない。重複したものは集約する。

それから戦略である「教育」や「事業誘致・起業支援」との見比べ。1位の児童養護施設は、内容的には「教育」のカテゴリーに近い。カテゴリーの修正が必要。

もう一つは、「事業誘致・起業支援」としてデータセンター、災害備蓄庫等、物を置く空間的利用施設の誘致も上位に入れたい。

**池田委員**⇒20年先、情報化社会が進展し、高速出口のある西小が町の中心となる。教育文化と観光施設を併せた人を集める施設を持っていく。東小は農業中心のもの。

**出浦委員**⇒中央小の学童クラブは、これだけで建物すべてのスペースを使うことはない。学童クラブ、プラス何かという考え方をしながら組み立てる。

**井出正臣委員**⇒中央小の分譲住宅は反対である。

**石井委員**⇒不動産屋として、分譲しても多くの人が流入する位置に佐久穂町はない。建物を売ると言っても買う人がいない。買ったなら解体が必要で、解体費用、不動産取得税を考えれば、そんな高い物を買って分譲などできない。

佐久穂らしさに「教育」を強くうたっているが、6校を1校にした後で教育と言っても真逆である。思い切って1つにまとめるならば、残ったものをこの町の発展に寄与するものにしないといけない。

たくさん案があるが、現実的な部分と公が使うものでないものに重点を置いて考えるのが一番望ましい。

**吉田委員**⇒東小はガルデン、中央小は統合小中を最大限活かす施策として教育と住まい、西小は浅川製作所や高速との距離を考えて産業、八千穂小中はしらかば体育館、美術館、黒沢酒造、また八千穂高原観光客との連携を考え観光とした。

**山口委員**⇒力武委員の言うように、似たものはまとめる。絞り過ぎない。民間企業誘致の場合、相手の希望があり、学校を絞ると企業も逃げてしまうので、柔軟性を持たせた提言書

も必要である。

**佐々木茂委員**⇒力武委員に同感。

**内藤委員**⇒もう少し何か足りない感覚。西小は情報発信、八千穂中は企業等で外向き。東小もどちらかという外向き。中央小と八千穂小は教育で内向きと考えた。

**畑委員**⇒西小は広域農道、高速 IC を考慮して、庁舎、情報発信基地、障害者リハビリ施設、養護施設、千曲病院との連携を考えた。

**佐々木正道委員**⇒今後の進め方として、A3 資料の各学校のポイントで関連付けて考えたらどうか。西小は交通の便を考慮すると、5校で一番価値がある。20年先の利便性を考えて役場も。

**菊池委員**⇒評価結果を見ると、どの学校も1位の点数がダントツ。2位、3位、以下はどれが入れ替わってもおかしくない点数。2位以下は慎重に協議すべき。八千穂小中合体案は意見がばらついている。

**倉澤委員**⇒小規模ケアの須坂市の事例では、6～8人が一つの家庭で生活する中で、精神的に落ち着き子ども達に良い結果が出ている。学校を想定した場合、1つの学級を1つの家庭とできないか。国県の相当な支援を得られる。

西小は情報発信基地が良いかと思ったが、30年50年先、役場庁舎が今の位置で良いのか考えた。

また、石井委員の被災者用住宅は素晴らしいと思った。レプリカ美術館は奥村土牛美術館との連携から八千穂小中辺りが適地ではないか。

**井出和廣委員**⇒八千穂小中合体案は、広大な敷地で一つの案では面積を使いきれない。更地にしておき考えるのも一つの方法。

**岡部委員**⇒東小校舎、西小体育館、西小校舎以外は、耐用年数が過ぎていたため、何か事業をやる時には耐震工事、補強若しくは取壊となると思う。東小は、地元の要望が若干あることを考慮すれば、宿泊体験、ショートケア。中央小は町場の一等地、住宅地として売り出す。西小は庁舎、緊急避難場所、防災センター。八千穂小中は千曲川より低く、県道が伸びる予定もあるので、給食室は地物の加工工場、それ以外は更地で公園化を考える。

**和光委員**⇒東小は校舎が一番新しいので、小規模ケア、老人ホーム、自然体験交流施設。中央小は中心地で、よそから受け入れる分譲住宅。西小はこの順位のとおり。八千穂小は更地にして返還。八千穂中は取壊し大きな更地に。体育館は耐震も済んでいるので使い道がある。

**井出重太郎委員**⇒東小には、大日向の歴史を残したい。アウトドア、観光と言ったとき、古谷溪谷、キャンプ場、白石荘との繋がりを考える。西小は庁舎。インターができ発展するとすればそこだけ。八千穂小中は、天神橋の上の大岩を撤去したことにより、大雨時、堤防が決壊するという考えが必要。住宅地は考え難い。生活する場所ではなく、憩いの森、グラウンドとした方が良い。

**友野委員長**⇒順位の下から上へ、また3つが4つになってもよい。内容を濃くする。

1番は「教育」とした時、役場庁舎がどう教育、佐久穂らしさに繋がるか。「教育」「産

業振興」を念頭に置いた時にこの順位は変わってこないか。

**池田委員**⇒町の一番良い場所、玄関口に庁舎は考え直すべき。町の発展のしようがなくなる。

役場に年何回行くか。それより観光客、情報発信に利用すべき。

**石井委員**⇒池田委員の言うとおりに。役場を西小に持っていき、町が発展するなんて考えられないし、高速が近いから役場が活性化のイニシアチブを取るなんてあり得ない。茂来館を有効活用すべき。

**友野委員長**⇒Aグループの方で背景の説明をお願いしたい。

**岡部委員**⇒役場は町の顔。どういう教育課程を取っているか見える窓口、教育の発信場所である。付随して防災センターにより町の安全性をうたう。

**井出正臣委員**⇒岡部委員の発言は、Aグループの総意でない。

町は統合小中学校に多大な費用をかけている。これで町が教育を疎かにしたら先がない、間違いである。ハードだけではなくソフトが大事。町は教育委員会に費用をかけ、今後の方向性を示さなければならない。そうした時に、学校のうちどれか1つが使えないかとした時、中央小がそれを補う施設になればということが出てきた。

また、5校がすべて教育に活用するかと言えば、そうではない。例えば、5校のうち2校が教育とすれば、次は産業、観光と段々降りてきて、その結果、役場の利用が出てきた。

西小はスクラップアンドビルドではなく、既存建築物の改修利用である。使い勝手が悪い、用途うんぬんではなく、町の財政から見て、使える施設を使うという中での西小の利用である。その時には、トコロテン式にこの敷地が空く。その方が地域発展には良いかも。そこまでのビジョンをこの委員会で示すかどうかは別だが。

西小に特化してどうこうではなくて、スパイラルな議論の結果である。

**出浦委員**⇒学童クラブをどう教育に生かすのか、カテゴリーの修正が必要。佐久穂らしい学校教育とは何か、それに適した場所はどこか、町にとって何が必要なのか、もう一度考える。

**池田委員**⇒西小の話に絞る。佐久穂町の顔であることは同感。ただし、佐久穂ミュージアム、文化財などの利用をすべき。集客施設として、高速からあそこにかかると見える場所が一番良い。20年後、残るのは観光しかない。双方向の情報発信が必要。役場がインターの真正面にあるのはいかがか。

**出浦委員**⇒西小は高台だから良いという意見はたくさんあるが、今の役場位置が危ないとなれば、中心部の高野町も同様の話。どこまで考えて提案すべきか検討する必要がある。

**力武委員**⇒西小について例えばの話。庁舎と総合防災センターは一つにまとめてよいのでは。井出委員の言うとおりに、全ての学校に教育を持ち出さなくても良いが、なるべく挑戦する。

通信学校への貸し出しとあるが、通信学校に限らず学校を誘致する。佐久穂町の子ども達も進学する可能性があるし、学校という事業が事業誘致にもなる。

インターチェンジに近いということで、情報発信基地。その機能は重要だが、もう少し事業・ビジネスを生み出す軸足にしたい。情報発信基地というタイトルだとそれが伝わらないので、ビジネス寄りの表現にして情報発信という機能を持たせる。

もう一つ、小規模グループケアは良いアイデアだが、仮につくるとすれば、病院の近く

の方が良いという考えもあるし、大きな施設を使うものではないかもしれない。

**出浦委員**⇒昔は特養など山間部にあったが、今は地域の中という流れ。

**原副委員長**⇒各校の1番を教育に決める必要はない。障害者養護施設には教育が関連するし、教育に力を入れるならば学童保育ではなくて児童館という方向もある。

先日、統合小中学校を見学したが、小中学校の共有スペースが多く、ボランティアケアセンターも入り、この町はよく考えている。他地域から転任された歴代校長先生が、この町ほど教育にお金を配慮している市町村はないと言っていた。人を大事に考えている。

庁舎は、新庁舎と言っても間借り。しかし中核はきちんとした場所に置く。学校施設、人的配置はすごいが、役場はみじめと言われている。分庁方式は町民にも迷惑、指令も出せない。

菊池委員の言うように、第1位はダントツで点数が高いので、大事に考える。

**友野委員長**⇒ブラッシュアップにあたり、4位以下で外せない意見をお願いする。

まず東小について。

**力武委員**⇒「1番、データセンター」「12番、災害備蓄庫」は上位においても良い。

**池田委員**⇒「3番、7番」と「8番、4番、5番」はほぼ似た内容。

**井出重太郎委員**⇒20番と大日向の歴史を片隅に。プラス1ということで。

**出浦委員**⇒迎賓館には、そういう展示が含まれている。

**山口委員**⇒24番。すべての施設は学校である。施設がそのまま、若しくは最小限の改修で使える。教育関係の施設が来るのであれば、東小に限らず、どこの学校も残してよいのでは。

**池田委員**⇒東小ではなくて中央小なら、という話が現実にある。

**石井委員**⇒東小は更地にしたからといって、どうこうなるわけではない。立派な建物を活用する方向で考えていく。

**井出正臣委員**⇒検討にあたり名称が邪魔。石井委員の一言がタイトルの最初につくことが重要。名称を取り払い、利用用途を文章化することが提言として重要。まずは、既存の建物を利用するという言葉、次にその用途について、タイトルに縛られない方向性を出す。具体的な話、事業主体や民間募集等は先の話。例えば、里山迎賓館の開設という提言だと方向性が異なる可能性がある。

**佐々木茂委員**⇒同感である。

**出浦委員**⇒周りの豊かな自然が売りもの。これを活かせるものに利用したい。

**佐々木正道委員**⇒委員会としてどう提言するか、そろそろ考える。具体的にになると言葉で捉えてしまう。Aグループの結果とうまくミックスされていない。

**力武委員**⇒どの学校ではなくて、全体としてどういう提言をするのか。それから、学校ごとに特徴がある。然るに石井委員の言うように、この学校はこういう方向性にしよう。そして、例えばこういう使い方があるという落とし方で。

**出浦委員**⇒(力武委員の言う)最後の例えば、が今回の議論の部分。

**佐々木茂委員**⇒東小は建物が新しく貴重な財産であるから、立地条件等を勘案してこんな使い方があると。「絶対これ」となると町も提言をもらっても困る。施策をやるやらないの判

断になってしまう。いくつか良いものがあれば選択肢も広がる。特に民間となれば、民間を募集した時に入れる幅がないと、せっかく良い提案を頂いても施策にならないという形になりかねない。

**友野委員長**⇒その方向で議論を進める。

**友野委員長**⇒次に中央小について。

**井出正臣委員**⇒分譲住宅を下へ下げる。Aグループの戦略と不一致である。

**出浦委員**⇒宅地分譲の根拠に小海線に近いとあるが、羽黒下駅も八千穂駅前も土地が空いている。中央小の一番のポイントは、統合小中学校に近いこと。教育に利用できないかが最大のポイント。保育、学童保育は「教育」のカテゴリーが主になる。

**佐々木茂委員**⇒17番、19番、18番、49番がすべて1位に入る。主は教育で、補足的に学童クラブで保育となる。

**岡部委員**⇒学童、児童館の機能を持たせながら、老人施設も一緒になる部分があっても良いのでは。現在、いろんな技術を持った校外指導員が学校で教えている部分も含める。

**出浦委員**⇒南校舎と北校舎がある。体育館と1つの校舎は使うかもしれないが、2つの校舎を使う必要性は多分出ない。他の用途と複合的な利用を考える必要が出てくる。

**友野委員長**⇒分譲住宅を下げることについて、どうか。

**石井委員**⇒統合小中学校は大変立派で、あえて付け加えるほど足りないものはない。学童施設がいるのかどうか考えたらどうか。

中央小が宅地分譲として立地条件が良い理由は、駅ではなく、小中学校があるからである。小中学校の周りが栄える。確かに、他の場所に比べれば、売れる可能性は高く、10、20戸は売れるかもしれないが、雁明の二の舞。本当は、売り出してバアッと集まってくれる町になってほしいが、今の状態では考えられない。

**佐々木正道委員**⇒石井委員の言うとおり可能性の低いものは消して、他のものを上げた方がよい。

**井出正臣委員**⇒学校が終わった後、佐久市の塾やバレエ教室へ親が連れて行っているのが現状。つまり、この町にコンテンツがなく、町に学ぶ場所が必要。教育に絡めて産業を考えれば、例えば、大学時、塾講師をやっていて、学校の1室を貸してもらえれば学習塾が開設できるという人達がいる。その人達が地域で、子ども達の学習のスキルアップをしてくれるならば、そういう施設として使うのも良い。

**力武委員**⇒子どもの放課後施設には、小規模グループケアの併設も考えられる。

**友野委員長**⇒メインテーマは教育だが、3位の原発も材料に含めて考えるか。

**佐々木正道委員**⇒八千穂小に原発被災者限定移住用地開発がある。15番はそちらに持って行って考えられないか。

**石井委員**⇒実は、八千穂小中を居住区域としたのは面積である。福島県南相馬市に友人がおり、放射能の集積地で向こう100年、200年は家へ帰れない。故郷を捨てて出ていかなければならない。政府方針では、町単位で移動させようとしているが、町単位で移動できる場所は日本中どこにもない。せめて区単位で移動できないかということで、150～200戸と

推計した場合、移動できる場所があそこしかなかった。危険な場所という指摘も受けたが、治水工事がされており、水が真っ直ぐに速く下へ降りるので、災害も起こりにくい。

西小と中央小を就業拠点としたが、中央小は林業関係ではなく、食品関係でも良いと今は思っている。これはトータルで出した案で、バラバラに載ったためチグハグになってしまった。

**佐々木正道委員**⇒結局、住だけを与えても、収入かなければダメ。仕事と住む所がセット。趣旨がよく分かった。仕事場としてイメージされた面積は足りないか。

**石井委員**⇒西小と中央小だけでは当然足りない。300人位の就業場所を作らないと。年収350万円×300人の利益を生む産業を作ることは難しい。

**佐々木正道委員**⇒敷地的に見て可能ならば、町単の高速道路工事の残土を持ってきて、かさ上げて、安全に生活ができ、就業場所が実現できれば良い案ではないか。

**友野委員長**⇒中央小は第一が教育で、原発は残して、トータルビジョンを次回話していただくこととする。

**友野委員長**⇒話のつながりがあるので、次に八千穂小中について検討する。

**池田委員**⇒戊の満水や平安時代など、いろんな事があつた。数百年、数千年単位では起こるだろう。地形を見ると、火山特有の深層崩壊の危険性があり、堤防は関係ない。地勢的に起こるのではないかというベースで考えた方が良い。恒久施設や絶対流してはいけない文化財は止めた方が良い。

**井出重太郎委員**⇒天神橋の岩を取った理由は、そこに水が当たり、石堂川を止めて清水町が大洪水になったため。約30年前、大水が出て退避命令が出た。岩が無くなった以上、危ないと自分の頭にある。あそこに住宅は考えられない。企業誘致も考えられない。福島から無償で連れてくるというが、有事の際には、町が顔向けできない。いつ起きるかわからないし、100%安全だとは言えない。法的にここはダメではなくて、頭の隅に考えてもらいたい。

**出浦委員**⇒私も昭和34年まで住んでいた。岩を取り、水路をストレートにした。それ以降は、災害が出ていないのも事実。池田委員の言う深層崩壊は、あのエリアだけでなく、全部がやられる。頭の隅に置くとなれば、減災をどう考えるかということ。限定しすぎるとできなくなる。企業誘致を考えると、危険があると言うと落ちてしまう。

**佐々木茂委員**⇒都会などよその地域も堤防の方が高い。大雨が降り、堤防が決壊し床上浸水は、現実上どこでも起こりうる。あまり限定しない。洪水ハザードマップによると堤防が決壊すると庁舎も危ない。今住んでいることを否定することになる。過去の事例はあるが、大前提あまり前に出さないで、戊の満水等の事実もあつたという形にしないと、選択肢が無くなってしまう。

**池田委員**⇒西小や花岡など遺跡がある所は、千年そこらは大丈夫。遺跡がない所は何かあつたと考えるべき。

**井出正臣委員**⇒災害については、我々の検討結果に行政のフィルターを通していただければどうか。すべての立地に対して考えなくてはいけなくなる。

友野委員長⇒次回、原発の関係について石井委員に説明いただき、八千穂小中の検討を継続する。

#### 4. その他

黛⇒次回会議の日程説明。

次回会議：第9回 12月13日（木）19時から 佐久庁舎南第一会議室

#### 5. 閉会